あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

○○7

第1章・ゆとり教育世代の子どもの文化

スイッチ

努力の大切さ伝えたい

この10年、特にゆとり教育世代に入り子どもたちの受験に対するイメージが貧困になってきたような気がします。受験の結果、「受かる」と「落ちる」に分かれるという知識は情報としては頭に入っています。しかし、頑張って受かった、頑張ったのに落ちた、日々の勉強を大切にしただけで受かった等々の合否の間にある人生のドラマに対する想像力が貧しくなってきたと思います。

先日、中2の男子とお母様、そして私の3人で入塾面談がありました。私が「志望校は」と聞くと、元気に「工業！」と答えました。「では卒業したら」と続けて聞いてみると「はい、将来は警察官」と。私は「うん、しっかり考えていて偉いね。でもなぜ警察官を目指して工業なの」と聞いてみました。すると「だって工業から警察官になった人がいるって、ね」と母の顔をのぞき込みました。お母様は「そのように話したことがと仰いながら、進路はそれだけではないのだけれどもと言いたげだったので、私は「大学は考えないの」と質問しました。

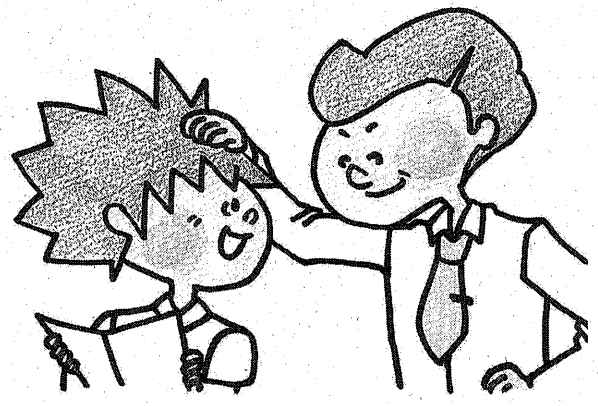
「大学？」。私が「頑張って八高なんか目指したら」と続けたとき、お母様が「八高だったらお母さんうれしいなあ」と。本人は、一瞬きょとんとしたと思ったら「じゃあ八高にします」と。その気持ちの切り替えの速さに私の方が慌てて「あのね、八高って難しいんだよ。勉強頑張れるかな」とせっかくの気持ちも尊重しながら話しかけました。本人は「だってやればできるって。ね、お母さん」と。お母様は「そうは言ってもね」とバツが悪そうな表情で仰いました。とても明るく素直な子どもで、面談は順調に終わりましたが、どうも私にはその子どもの〝やればできる〟という言葉が〝やればできるスイッチ〟でもあるかのような違和感と一緒に頭に残りました。

〝やればできる〟に違和感

確かに塾の現場でも「高校はどこでも同じでしょ」「やればできるんだよね」という努力先送りの子どもたちの発言が増えています。大人は子どもに「何事もやればできる」と言いたいものですが、「やり続ける努力、やり抜く力がなければ実現しない」という意味もあえて明確に教えて行かなくてはならないのかもしれません。

勉強、部活、遊びやお手伝いとさまざまなシーンで、合格・不合格、勝ち・負け、良い・悪いといった〝スイッチ〟ではなく、その間にある努力、苦労、背景、事情というすき間を埋める子育て・教育がますます必要になってきています。

（畑山篤＝志学塾塾長）



by yoriko

全国から小
いるUNO
シャイン60

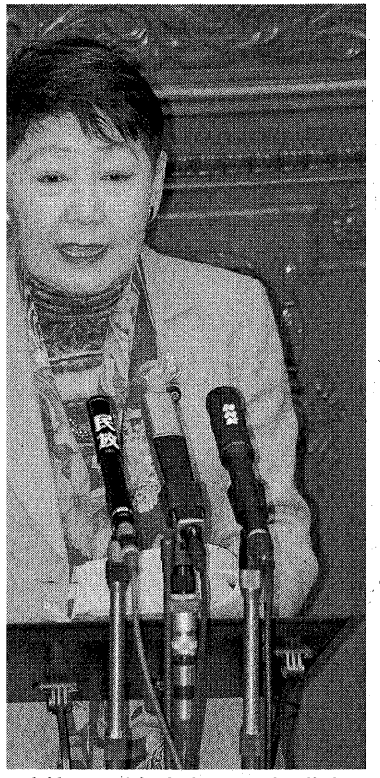
約40年前
生し、日本
れたカード
NO（ウノ
放課後や修
供として、
い出す人た
は。日進月
ゲームの隆
だが、現在
なぐコミュ
ンツールと
保っている
ウノは中
カード」と
数字、文字
あれば捨て
も早くすべ
を捨てられ
順番が飛ば

教育

ニュース なぜなに

た。つまり、妻が姓を変えるということです。

しかし、女性が主婦として家事をするだけでなく、男性と同様に社会に出て働くようになると、結婚を機に姓が変わることに不便を感じる人が増えました。また「子ども



千葉景子法務大臣。弁護士